場所　１０組教室

１０組　自立活動学習指導案

授業者　石原　俊

１　単元　「目と手と頭をきたえる自立」
～道具マスターをめざせ！～
探究課題「速く正確に道具を使うためにはどうする？」

２　本時の指導

（１）段階　「習得」　４／８　時間

（２）目標

・使う物の配置や使い方などを工夫し、前回の記録を超えることができる。
（「習得」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	1　前回の記録を確認する。	・一人一人が前回の記録を認識できるように、挙手をして発表するよう促す。
	学習課題　やり方を工夫して前回の記録を超えよう！	
5	2　ビーズ入れの記録を伸ばすためにどう工夫すればよいか考える。	・記録の伸びを実感できるようにするために、前回と同じ種類の箸を使うよう促す。 **◎前回の記録を超えるためにケースの配置や移動のさせ方、どのビーズに重点を置くか、箸の持ち方などの視点を与える。また、工夫点を共有して、自分に取り入れるよう促す。**
10	3　ビーズ入れを行う。	
	4　記録を書いて発表し、片付けを行う。	・発表しやすくするために「○○の箸で～個でした。前回よりも～個増えました（減りました）。」という定型文を示す。
20	5　電卓計算の記録を伸ばすためにどう工夫すればよいか考える。	・記録の伸びを確認するために、前回と同じ難易度を選択するよう促す。 ・前回の記録を超えるために、物の配置や電卓の持ち方、電卓の打ち方などの視点を与える。
25	6　電卓計算を行う。	・工夫点を確実に実施するために、電卓計算を開始する前に理解できていない生徒に対して工夫点を伝える。
40	7　記録を書いて発表し、片付けを行う。	・発表しやすくするために「難易度○○で○問正解でした。前回よりも○問増えました（減りました）。」という定型文を示す。
45	8　振り返りを発表する。 「ケースをビーズの箱に近づけるという工夫をしました。前回の記録を超えることができました。」	・発表しやすくするために「○○という工夫をしました。前回の記録を超えることができました。」という定型文を示す。

３　評価

・使う物の配置や使い方などを工夫し、前回の記録を超えることができたか。
（一人一人の記録用紙と振り返りの内容から判断する。）